

構造ベクトル自己回帰(SVAR)推定: 国際金融への応用

翟唯揚 (富山大学)

吉田裕司(滋賀大学)

概要

構造ベクトル自己回帰(SVAR)とは、複数の変数間の時系列関係を捉える VAR モデルの応用の一種であり、ラグを伴う関係性だけでなく同時点における関係性を明確に考えることができる。SVAR 推定を利用することで、構造的ショックが内生変数に与える影響を明確に出来ることで、マクロ経済政策や国際金融問題の分野で広く応用されている。本稿では、SVAR モデルの計量的な基礎を整理し、最新の計量分析の手法までの検討を行う。本稿の目的は、SVAR モデルを概説し、現行の各手法が持つ特徴や使い分けについて整理し、各経済学分野において SVAR 分析を用いる実証分析を行う研究者に知識を共有することにある。さらに、日本を対象とする国際金融分野への応用例を用いて、データ検証を行うことで、異なる分析手法の特徴を示した一方で、今後の課題と方向性を明らかにすることが期待される。

JEL 分類コード:

キーワード: 経常収支ダイナミクス、構造ベクトル自己回帰、ショック別為替パススルー、narrative 符号制約、ベイズ推定